

一般社団法人日本医療薬学会 第74回医療薬学公開シンポジウム

開催報告書

第74回医療薬学公開シンポジウム 実行委員長 池田和之

令和元年(2019年)9月29日(日)に奈良県立文化会館 小ホールにおいて、第74回医療薬学公開シンポジウムを開催しました。平成9年から20年以上、これまでのべ73回開催されている医療薬学公開シンポジウムの歴史の中で、今回初めて奈良県内での開催となりました。奈良県内には、薬学部を有する大学や国立大学病院がないことから、今回の公開シンポジウムは奈良県薬剤師会、奈良県病院薬剤師会をはじめ県内の主要医療機関の皆様方とともに協力し準備を進め開催いたしました。当日は、年度の半期の多忙な中にもかかわらず、奈良県内の病院や薬局に勤務する方をはじめ、遠くは名古屋や静岡からもお越しいただき、122名のご参加をいただきました。

今回は、開催テーマを「チーム医療を支える薬剤師 ～多職種連携における認定と薬剤師の役割～」として、薬剤師が取得可能な認定資格の中でも薬剤師だけでなく多職種が共に目指すことができる認定資格を取り上げ、その中で薬剤師が果たす役割について議論しました。特に今回の公開シンポジウムでは、多職種が共に目指すことができる認定資格として、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、医療情報技師の3つの認定について取り上げ、薬剤師における各領域の第一人者の先生方から講演いただきました。各演者からは、それぞれの資格の現状や薬剤師としての活動の内容など具体的な取り組み、さらには今後の展開等についてまで紹介いただきました。さらに特別講演では、「チーム医療と病院の国際化」としてNTT東日本関東病院の折井孝男先生にご講演いただき、病院の国際認証とその中での薬剤部門の役割についてお話しいただきました。日本では、日本医療能評価機構の病院機能評価がありますが、国際的な病院評価として米国発祥のJCI (Joint Commission International) があります。このJCIでは、医療の提供に病院全体が一丸となって取り組んでいることを重視します。講演では、実際にJCIの審査を受審した経験を基に、お話しいただき、薬剤師だけでなくすべての病院スタッフがかかわる、まさにチーム医療の実践が不可欠であることが理解出来ました。総合討論では各シンポジスト共にフロアーからも活発なディスカッションが行われました。特に、それぞれの認定資格における背景や今後の展開などは様々ですが、これら薬剤師だけでない認定資格を取得することで、各認定資格の中で共通言語を習得し互いに職種を超えて理解することができる点が最大のメリットであると再確認されました。

最後になりましたが、座長ならびに特別講演、シンポジストとしてご登壇いただいた先生方ならびに後援をいただきました、一般社団法人奈良県薬剤師会、一般社団法人奈良県病院薬剤師会、薬剤師・医療情報技師会の皆さま、さらに今回このような貴重な機会を与えていただき、企画・運営にご尽力いただきました一般社団法人日本医療薬学会 事務局の皆さまには心より感謝申し上げます。